

第37回 DAAS運営委員会 議事(案)

□日 時:2018年12月19日(水) 14:00~16:00(予定)

□場所:公益財団法人 建築技術教育普及センター内 第1会議室

千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル3F

TEL:050-3786-0568 DAAS 事務局

□ 議 事:

[報告事項]

運営に関して:これまでの打合せ報告

資料1

会員・会費・補助金の現状及び第14期までの予測

資料2

[承認事項]

第13期総会資料・第6回理事会資料一式

別紙

配布資料:

第37回DAAS運営委員会資料

第13期総会資料・第6回理事会資料一式

第36回DAAS運営委員会議事要旨

運営に関して:これまでの打合せ報告

【第11期】

2017年4月4日 国土交通省との打合せ

出席者:国土交通省:伊藤審議官(当時)／建築画報社:櫻井氏／DAAS 竺理事長・武藤

場 所:国土交通省

〈主な相談事項〉

- ・ DAAS 運営問題:会員減少等／総会開催の協力依頼・理事役員の相談／DAAS 法人化についての確認
- 〈回答・意見:伊藤審議官〉
- ・ DAAS 法人化について国土交通省として異論はない。(伊藤氏より担当の藤原専門官確認済)※その前に運営について丁寧な議論が必要
- ・ 預け先の提案(国土交通省から依頼ができるのは土木学会など)
- ・ 10年という機会で、DAAS の活動を一旦休止、最小限の運営、という案もありえる
- ・ DAAS 基本方針の再検討の必要がある
- ・ DAAS の活動を継続する場合、資料の活用方法の検討の必要がある

2017年9月21日 国土交通省との打合せ

出席者:国土交通省:淡野課長・高嶋課長補佐(当時)／DAAS 竺理事長・本多委員長・武藤

場 所:国土交通省

〈挨拶・相談事項〉

- ・ 国土交通省の担当者変更の為活動についての説明／運営の問題について報告、等
- 〈意見 等:淡野課長〉
- ・ 国土交通省としては「公的な資料の利用・活用」をしてもらうのは望ましいところ
- ・ 利用収入等に関してはまた別に検討すべきでは
- ・ ”公的範囲の明確化”ののち新建築社との交渉を
- ・ 国交省の支援は難しい。出来ることがあれば、というところ。
- ・ 文化庁、その他預け先の検討を DAAS で行う
- ・ DAAS 自体で存続する意向があるのならば、活動の軽量化が必要と思われる。(法人設立の希望があるようであれば、組織化、運営責任の明確化をしつつも活動自体を軽量化)

【第12期】

2017年11月15日 第35回 DAAS 運営委員会

場 所:永田町

〈検討事項・確認事項の一部として〉

- ・ 新建築社が、他出版社への写真貸出を行わない方針となったことについて竺理事長より報告
- ・ 新建築の権利の状況について 確認
- その後“出版社のみ”貸出をせず、一般の企業等への貸出は継続とのこと確認

2018年1月17日 設立時の権利調整についての確認(高見氏)

出席者:長岡;高見氏／DAAS 竺理事長・本多氏・武藤

場 所:長岡市庁舎

〈相談事項〉

- ・ 設立時の権利整理の状況の確認(11/15の運営委員会での検討を受け)

〈回答:高見氏より〉

- ・ 新建築社は当時委託事業としたことで資料を自由に出来なかったという印象が強かった様子。
- ・ 一度新建築社と今後の契約について DAAS で相談を

2018年2月2日 第12期総会

2018年2月27日 笠理事長 入院の連絡

- ・ 3月1日に予定していた新建築社 吉田社長との打合せを延期

2018年3月2日 笠理事長より新建築社 吉田社長に電話で事務局について依頼をしたとの連絡

- ・ 1)DAASを新建築社におくこと 2) 武藤はDAAS業務と新建築社の業務を兼務、2点を吉田社長に了解を得たという連絡
- ・ 新建築社に相談に行つて欲しいとのこと

2018年3月9日 DAAS事務局移動に際しての手續確認

出席者:公財 普及センター 鈴木理事長・中川総務部長・畠山総務次長／DAAS 武藤

〈回答〉

- ・ 新建築の業務の兼務については普及センターとして関与をしない。
- ・ 非常勤の嘱託職員という契約でも可能である(週一回から可能)
- ・ DAAS事務局を置くことは引き受けたが、当初より業務自体を引き受ける意向はない。そのため、DAAS事務局を現状のように、公財)普及センターに置く場合は、業務を行う人員をDAASで用意する必要がある

2018年3月20日 運営(移管先等)についての相談

出席者:長岡・高見氏／武藤

〈相談事項〉

- ・ 新建築社への DAAS 事務局設置についての相談
- ・ その他 DAAS 移管先の検討(建築研究開発コンソーシアム)
- ・ 移管先交渉を国土交通省で行っていただくよう武藤より高見氏へ依頼

2018年3月22日 新建築社との打合せ

出席者:新建築社 吉田氏／ DAAS 武藤

場 所:霞ヶ関

〈確認事項〉

- ・ DAAS 事務局の設置について

〈吉田氏より回答と提案〉

- ・ DAAS 事務局の設置、及び運営に関して新建築社で行う意志がないことを確認(笠先生の緊急の様子と体調への配慮から電話は受けていたが、内容については理解ができていなかった、とのこと。)
- ・ 新建築社として支援出来る範囲を検討したい。まずは、DAAS の PR など
- ・ 武藤には、個別に ビデオ制作、データ処理等の業務委託の可能性もあり得る。

2018 年 3 月 26 日 DAAS 移管交渉を依頼(長岡・高見氏へメールにて再依頼)

- ・ 国交省から国交省関連団体などへの DAAS 移管について再依頼
- ・ DAAS を継続する場合のメリット・デメリットや、研究開発コンソへ移管をする場合のメリット・デメリットの整理をして送付
- ・ 笠理事長の状況報告

2018 年 4 月 28 日 国交省担当官 異動挨拶

場 所:普及センター

- ・ 高嶋氏から伊東補佐へ担当が変更となる旨挨拶あり

2018 年 4 月 20 日 長岡・高見氏／国土交通省 淡野課長 面談

2018 年 4 月 25 日 長岡・高見氏より報告(メールにて)

- ・ DAAS の状況説明を行ったので再度 国交省 淡野課長と相談を、との連絡有

2018 年 5 月 8 日 運営(移管先等)についての相談

出席者:国土交通省 淡野課長・伊東補佐／DAAS 本多委員長・武藤

場 所:国土交通省

〈相談事項〉

- ・ 笠理事長の状況報告
- ・ 会員離れ、費用縮小の状況
- ・ 今後の DAAS については国土交通省の意向次第。
- ・ 活動を継続する場合は、国交省傘下の財団、団体の支援の必要があること
- ・ 他団体に統合する方法
- ・ 資料を後世に残すために預け先を検討する場合の例、など。

〈淡野課長より回答〉

- ・ DAAS のサービスを最小限とし、WEB の写真のみ閲覧できるようにするのはどうか。
- ・ その場合の費用を算出、コンソーシアムを維持し会費として会員に依頼(例:100 万の場合、5 万*20 社)
- ・ 最終的には文化庁 近現代建築資料館に預けることが望ましいのではないか
- ・ 文化庁 近現代建築資料館受取が出来ないと以前回答があったことについては「著作権期限がいつ来るか」などを一覧表として資料と共に渡すということではどうか
- ・ 近現代建築資料館への交渉は、芦原前理事長、もしくは普及センター 鈴木理事長代行が良いと思われる(必要があれば鈴木氏に MLIT から依頼することも可)
- ・ 普及センターへの現状や、今後についての見通しの説明は、センターの負担がないよう整理したところで行う

等々を、DAAS 運営委員会で検討するよう

2018 年 6 月 6 日 国土交通省伊東補佐より補助金交付についての連絡

- ・ 来期補助金について、獲得をするよう国土交通省で努力をする。しかし状況は年々厳しくなっている。獲得は難しいと予想される、とのこと。

- ・（事務局より）補助金事業ができなければ、新規コンテンツ制作はできず実質的な活動が休止となる。そのような中では会員離れはすすみ、即解散、資料返納の選択肢可無くなると回答。

2018 年 6 月 12 日 第 36 回 DAAS 運営委員会

場所:普及センター

〈報告事項〉

- ・ 理事長職務代行について
- ・ 運営に関して:これまでの打合せ報告
- ・ DAAS 資料の著作権について
- ・ 会員・会費・補助金の状況

〈検討事項〉

- ・ DAAS の今後について

〈承認事項〉

- ・ 退職規程（内容を後日社労士等の相談窓口で確認。ただし今後の予算見通しを検討し一旦保留）

2018 年 7 月 6 日 国土交通省 企画専門官への DAAS 説明と運営委員会 6/12 の意見報告

出席者:国土交通省 佐々木企画専門官・伊東課長補佐／DAAS 本多委員長・武藤

場 所:国土交通省

- ・ 民間企業の退会に歯止めがかからないことから、DAASの運営はますます現状維持が難しくなっている
- ・ 今後の方向性を見定め早急に行動を起こすことが必要である。移管・解散、または国土交通省の提案する「サービスの縮小」などが選択肢として検討されるが、仮に、「最小限のサービスの提供」に絞る場合、実質的な活動が見られない団体への会員の支援はますます難しくなると考えられ、状況は悪化することが考えられる。
- ・ 国土交通省の補助金の交付が止まる場合も同様に実質的な活動が停止し、会員の退会が増え、解散という状況においこまれることになるのではないか
- ・ 仮に、解散になったとしても、高解像度データの引き継ぎ場所が決まらなければ、資料は国に返納となり、国での予算が確保されなければ、資料は死滅、散逸といった状況になる可能性は高い。
- ・ データの公益性、国の立場や、企業支援を受けたことを含め「資料は広く閲覧できる状態」=Webサイトの維持・管理が継続されることが望ましい姿なのではないか。
- ・ ただしその為には、Webサイトの保守を専門とする会社への委託だけでなく、指示、トラブル対応、費用の工面、等の“事務局機能”が必要となる。事務局業務をどこかに依頼するか、事務局員を確保するか、いずれでも構わないが、いずれかの体制、費用は必要。
- ・ それに加え、会費支援を継続する場合は、特に民間企業には、事業の成果、説明が必要である。それが見えなければたとえ会費が5万でも経費継続は出来ない、という意見。
- ・ 団体会員は、DAASが補助金を受けていることが、「国が支援を継続している」「DAASを支える」という状態であること。それが会員を継続する理由となる。
- ・ 補助金なくなった場合は、それらが全て見込めない＝活動縮小だけでなく、解散に追い込まれる。
- ・ あわせて最低限貴重な資料を後世に残す先をどのようにするか。
- ・ 文化庁近現代建築資料館とするならば、国と国とで交渉してもらうしか手がないのでは。

※ DAAS の資料は DAAS-Web サイトでの公開のみ権利者より了解を得ている。（＝一般に広く利用してもらう為には、DAAS-Web サイトの維持・管理が必要となる）

→「DAASの今後については、体制や移行先から検討するのではなく、行ってきた事業(サービス)の継続、もしくはサービスの選択から検討を行うこと」を前提として、それぞれの場合におけるメリット・デメリットについて整理を行った。

→他団体にWebサイトを移行した場合の概算見積もり(複数ケースを想定)

1. Web サイトの総改修

管理がしやすい WordPress などの ブログツール にすべて 置き換える

- ・ 概算見積: 350万から 400万 程度

2.現状のシステムのまま 移行先に渡す

現在の Web 制作 保守 改修を依頼している 会社より 引渡しの 口頭説明

- ・口頭説明費用概算 :1回5万円 * 数回(資料作成費別途必要)
- ・その後 サポート が必要な場合の 概算費用: 20から30万 / 月 * 数ヶ月

3. 現状のウェブサイトのまま 現在の 体制で 引き続き 保守とメンテナンスを行う

- ・ケース1:データの管理修正等を含めない場合 10万 / 月
- ・ケース2:データの管理修正等を含む(毎月) 50万 / 月
- ・ケース3:データの管理修正等を含む(まとめて数ヶ月ごと) 50万 / 回

2018 年 9 月 4 日 国土交通省 へ著作権状況の整理のリスト等必要資料の送付(事業報告案別紙)

2018 年 9 月 28 日 本多運営委員長との打合せ: 第13期総会実施までの作業及び整理等

出席者: DAAS 本多委員長・武藤

場 所:山下設計

2018 年 10 月 3 日 三塩委員 日本設計様への資料:DAAS の今後について、提出と打合せ

出席者: 三塩委員・武藤

場 所:紀尾井町

2018 年 10 月 12 日 国土交通省 へ DAAS の現状(予算等)今後の運営について打合せ

出席者:国土交通省 佐々木企画専門官・伊東課長補佐/DAAS 本多委員長・武藤

場 所:国土交通省

- ・ 事業継承にかかる著作権の整理、手続の確認等

2018 年 11 月 8 日 司法書士事務所へ 事業譲渡に係る手続の確認と相談

出席者:醍醐香/DAAS・武藤

場 所:醍醐香司法書士事務所

- ・ 著作権整理については事業譲渡、合併、吸収等いずれも必要であり、DAASについては事業譲渡ではなく資料譲渡となりえるとのこと

2018 年 12 月 9 日 Web サイトの遷移方法、管理システム側の一部改修実装

会員・会費・補助金の現状及び第14期までの予測

会 員 数：当初の会員数から団体会員増加(6団体→10団体)、企業会員減少(22社→20社※)第13期はさらに退会予定

理事会員数：企業の理事会員は10から4へと減少(会費減額に大きく関わっている。)

会 費：設立時より全体で55%減という状況(規約改定実施：第10期企業会費減額、第12期理事会費減額)

今後の見込：第14期終了時には第15期への繰越金も無い見込み(補助金もなくなり、会費を第13期と同等として活動費用も無しという状態が予想される。)

DAAS会員数と収入経緯と現状(事業報告・決算報告より)

表1

(単位:千円)			収入額					支出					参考数値			会員数(理事)名簿上		
期	平成	西暦	会費	前年度繰越(1)	補助金	その他収入	予算総額(A)	事業費	管理費	支出総額(B)	当期収支(A)-(B)=(2)	会費前年比	単年度収支	未払/修繕引き当て金等々	団体	企業	個人+学術	
準備会	H17～H18	(2005～2006)	12,370				12,370		214	214	12,156		12,156		-	-	-	
第1期	H18～H19	(2006～2007)	0	12,156	0	10	12,166	5,948	3,067	9,015	3,151	▲ 12,370	▲ 9,004	未払い4000	-	-	-	
第2期	H19～H20	(2007～2008)	11,610	3,151	0	76	14,837	4,999	5,766	10,765	4,072	11,610	921		6(6)	22(10)	7(7)	
第3期	H20～H21	(2008～2009)	10,890	4,073	9,500	146	24,609	9,561	8,601	18,162	6,447	▲ 720	2,373	3,700	6(6)	24(7)	7(7)	
第4期	H21～H22	(2009～2010)	12,490	2,746	8,500	12	23,748	15,579	4,951	20,530	3,218	1,600	472	1,884	6(6)	22(5)	7(7)	
第5期	H22～H23	(2010～2011)	12,450	5,103	8,500	565	26,618	15,835	6,786	22,621	3,997	▲ 40	▲ 1,106	▲ 527	9(6)	22(4)	8(8)	
第6期	H23～H24	(2011～2012)	8,570	3,470	500	135	12,675	3,795	5,795	9,590	3,085	▲ 3,880	▲ 375	480	10(7)	22(4)	8(8)	
第7期	H24～H25	(2012～2013)	8,150	3,574	0	132	11,856	2,077	5,694	7,771	4,085	▲ 420	210	0	10(7)	20(4)	8(7)	
第8期	H25～H26	(2013～2014)	8,270	4,084	3,000	57	15,411	4,609	6,154	10,763	4,648	120	562	30	10(7)	20(4)	8(7)	
第9期	H26～H27	(2014～2015)	7,260	4,617	3,000	254	15,131	3,869	5,369	9,238	5,893	▲ 1,010	1,274	69	10(7)	20(4)	8(7)	
第10期	H27～H28	(2015～2016)	7,260	5,962	3,000	54	16,276	4,370	6,158	10,528	5,748	0	▲ 214		10(7)	20(4)	8(7)	
第11期	H28～H29	(2016～2017)	6,090	5,747	3,000	127	14,964	3,925	5,793	9,718	5,246	▲ 1,170	▲ 500		10(7)	20(4)	8(7)	
第12期	H29～H30	(2017～2018)	5,980	5,247	3,000	79	14,306	4,380	6,256	10,636	3,670	▲ 110	▲ 1,577		10(7)	20(4)	8(7)	
第13期(予測)	H30～H31	(2018～2019)	5,660	3,670	3,000	50	12,380	4,520	6,008	10,528	1,852	▲ 320	▲ 1,818		10(8)	18(5)	9(9)	
第14期(予測)	H31～H32	(2019～2020)	5,660	1,852	0	50	7,562	1,520	6,008	7,528	34	0	▲ 1,818		10(9)	20(6)	9(9)	

会費規定改定
減額実施初年度

会費規定再改定
減額実施初年度

補助金の状況

期	補助金事業 (単位:千円)	補助金契約先契約内容内容 内容			受託先			
第1期 (2006～2007)	-	-			-			
第2期 (2007～2008)	-	-			-			
第3期 (2008～2009)	9,550	優良住宅・建築物記録の作成			(社)日本建築士会連合会			
		(再委託分内訳)	2,350	事務局委託経費	一財)ベターリビング			
		1,030	褪色補正費用	大日本印刷				
		1,500	WEB改修費	慶應義塾大学				
第4期 (2009～2010)	8,500	優良な建築、住宅に関する資料のデジタル保全業務			一社)住まい・まちづくり担い手支援機構	(※別途担い手と直接契約分(DAAS介さず))		
		(再委託分内訳)	6,500	事務局委託経費	一財)ベターリビング			
		※総額1800万を各社へ	2,000	褪色補正費用	大日本印刷	8,000	データ制作費用	大日本印刷
		490	データ制作費用	ブロードワークス	1,500	WEB改修費		
第5期 (2010～2011)	8,500	優良な建築、住宅に関する資料のデジタル保全業務			一社)住まい・まちづくり担い手支援機構	(※別途担い手と直接契約分(DAAS介さず))		
		(再委託分内訳)	2,204	事務局委託経費	一財)ベターリビング			
		※総額1800万各社へ	1,500	WEB改修費	ブロードワークス	6500	大日本印刷	褪色補正費用
					2000	データ制作費用	建築写真家協会	
					1,000	データ制作費用	エスエス	
第6期 (2011～2012)	500	※東京都中小企業支援助成金を利用						
第7期 (2012～2013)	なし							
第8期 (2013～2014)	3,000	優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブス Webコンテンツ作成支援			建築等を通じた良好な景観形成・まちづくり推進協議会(景観まちづくり協議会) (一社)担い手支援機構			
第9期 (2014～2015)	3,000	まちなみ景観事例の収集・情報提供活動事業			一社)すまいまちづくりセンター連合会「優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWebコンテンツの作成等業務」として)			
		(再委託分内訳)	500	WEB改修費	ブロードワークス			
		600	VR制作費用	ワカ設計室				
		1,000	動画制作費用	すみだクリエイターズクラブ				
第10期 (2015～2016)	3,000	まちなみ景観事例の収集・情報提供活動事業			一社)すまいまちづくりセンター連合会「優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWebコンテンツの作成等業務」として)			
		(再委託分内訳)	500	WEB改修費	ブロードワークス			
		600	VR制作費用	ワカ設計室				
		1,000	動画制作費用	すみだクリエイターズクラブ				
第11期 (2016～2017)	3,000	平成28年度住宅建築技術高度化・展開推進事業			一社)すまいまちづくりセンター連合会「優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWebコンテンツの作成等業務」として)			
		(再委託分内訳)	500	WEB改修費	ブロードワークス			
		600	VR制作費用	ワカ設計室				
		1,000	動画制作費用	すみだクリエイターズクラブ				
第12期 (2017～2018)	3,000	平成29年度住宅建築技術高度化・展開推進事業			一社)すまいまちづくりセンター連合会「優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWebコンテンツの作成等業務」として)			
		(再委託分内訳)	5	WEB改修費	ブロードワークス			
		600	VR制作費用	ワカ設計室				
		1,000	動画制作費用	すみだクリエイターズクラブ				
		2,000	デジタルデータ化作業	大日本印刷				
第13期 (2018～2019)	3,000	平成29年度住宅建築技術高度化・展開推進事業			一社)すまいまちづくりセンター連合会「優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWebコンテンツの作成等業務」として)			
		(再委託分内訳)	700	WEB改修費	ブロードワークス			
		600	VR制作費用	ワカ設計室				
		600	動画制作費用	高橋菜生写真事務所				
		800	デジタルデータ化作業	大日本印刷				

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

第13期(2018-2019年)総会

開催日時 201●年●月●日(●)午●●時00分より午●●時●0分

開催場所 ●●●●●●●●●●

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム(DAAS)

第13期(2018-2019年)総会次第

開催日時 201●年●月●日(●)午●●時00分より午●●時●0分

開催場所 ●●●●●●●●

1 開会挨拶

竺 覚暁 建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム 理事長

2 来賓挨拶

● ●●●●●●● 様 ●●●●●●●●

3 議 事

議案1 第12期(2017-2018年)事業報告(案)及び収支決算(案)について

資料1 第12期(2017-2018年)事業報告(案)

資料2 第12期(2017-2018年)収支決算(案)

監査報告

資料3 監査報告書

議案2 第13期(2018-2019年)事業計画(案)及び収支予算(案)について

資料4 第13期(2018-2019年)事業計画(案)

資料5 第13期(2018-2019年)収支予算(案)

4 報 告

資料6 会員名簿変更について

資料7 規約第7条第4項に基づく指定代表者の変更について

5 閉 会

議案1 第12期(2017-2018年)事業報告(案) 及び収支決算(案)について

資料1 第12期(2017-2018年)事業報告(案)

資料2 第12期(2017-2018年)収支決算(案)

監査報告

資料3 監査報告書

DAASの今後について(各選択肢によるメリット・デメリットの整理) 別紙1

1. DAASの今後について(2018/7/6 打合せでの検討案)

前回の打合せでの提案事項「DAASの今後については、体制や移行先から検討するのではなく、行ってきた事業(サービス)の継続、もしくはサービスの選択から検討を行うこと」を前提として、それぞれの場合におけるメリット・デメリットについて整理を行った。

2. 当初の選択肢2案と追加案について

提案を受けた選択肢は以下2案。

A: DAASの事業を継続(国庫補助を見込まない)

B: 資料の永続的な保管場所のみ確保(優先)

ただし、整理にあたり、Aについてはコンソーシアム形式を継続する場合、もしくは解散する場合の2案、保管先については、文化庁、国土交通省もしくは関連団体・関連企業、の二つの選択肢があると想定し、AをA-1、A-2、BをB-1、B-2のと各々わけることとした。

A-1: コンソーシアム形式を継続し事業を継続

A-2: DAASを解散し他団体でDAAS事業を継続

B-1: 文化庁で資料を保管。(資料の永続的な保管場所のみ確保)

B-2: 国交省もしくは関連団体・機関で資料を保管(資料の永続的な保管場所のみ確保)

3. DAASの事業について(前回資料の再掲と一部追加説明を含む)

DAASの事業は以下①②③の3つに区分される。国庫補助を見込めない可能性が高いということから③はいづれの選択肢の場合も実施しない想定とする。

① [Webサイトの維持・運営]

- ・Webサイトが常時閲覧可能な状態を維持するためのウェブ管理

(事務局によるコンテンツの掲載・保守・管理のほか、Web制作会社へ委託しているサーバ管理、一部の複雑なコンテンツ掲載など)

- ・Webサイトの表示・機能等の改善(Web制作会社へ委託)

- ・Webコンテンツの著作権侵害防止へ向けた定期巡回・パトロールの実施

→コンテンツへ挿入した電子透かし(デジマーク)で、不正利用時の確認が可能
(デジマーク社と年間契約)

- ・Webサイトのドメイン管理(daas.jp)(年間契約・支払い処理)

② [国費でデジタル化・補整等のうえ収蔵した写真等コンテンツの高精細画像データ(RAWデータ)の運用・維持・保全]

- ・H17年度景観形成事業推進費による新建築社写真データを含む高詳細画像データをハードディスクへ保存し、事務局へ保管するとともに、これと同じデータを保存したハードディスクを民間の遠隔地保管サービスを利用して二重保管(冗長性の担保)

- ・美術館、雑誌社等から、高詳細画像データの二次利用許諾手続き(申し出受け入れ、著作者との版權調整、支払い手続き等)

③ [新規コンテンツ制作]

- ・DAAS-Web用コンテンツ、高詳細画像データ等のコンテンツ制作

→写真・図面等のデジタルデータ制作(表彰作品等、一定の評価を受けた作品資料)

- 動画制作(建築家・研究者のインタビュー＝オーラルアーカイブ制作)
- 360度全天球型VRコンテンツ(解体される建物等の空間記録) など
- ・国庫補助を活用

4. メリット・デメリットの整理

前述の事業継続に主眼を置く[A-1]、[A-2]、資料保管を優先とする[B-1]、[B-2]の4つのパターンで、メリット・デメリットを整理する。

A-1. コンソーシアム形式を継続し事業を継続

- ・コンソーシアムに参画する会員の会費により上記事業①、②を継続。
- (つまり、DAAS-Webサイトの維持・運営、高詳細画像データの運用・維持・保全)
- ・想定される形式: DAASが任意団体のまま、現状を維持・継続という選択肢は否定的な意見が多く、法人格等を有する機関等が任意団体「DAAS」を維持・運営する方法が現実的と考えられる。

メリット	デメリット
[社会にとってのメリット] ・DAAS-Webをこれまで通り利用することが可能となり、収蔵したデジタル資料を、Web サイトを通して国内外に広く公開ができる。(公衆送信権はDAAS が許可を取得。) ・Web サイトを通じ資料の所在や著作者が明らかになる。 ・高解像度画像データを展示・雑誌・書籍等、二次利用が可能。(有償での資料提供も可能) ・システムが継続されることで、膨大なコンテンツのストックが可能	[社会にとってのデメリット]
[DAASメリット] ・団体、事業の継続が資料提供者、写真家等との信頼関係を継続することになり、今後のアーカイブの資料を収蔵する上で有効となる。 ・国主導で始まったプロジェクトの継続という信頼。	[DAASデメリット] ・任意団体のまま、団体としての権利義務が発生しない(契約の主体になれないため、活動や事業展開にあたり、一定の制約を受ける) ・メセナ的な活動は参加会員へのメリットが少なく、企業会員の減少、運用費の減少により、事業継続が困難。 ・事業③の国庫補助等の支援や、その他会員メリット、新たな事業展開等を検討する必要がある。 →実質的な活動が見られない団体への会員の支援は厳しい。(会員の意見) →補助金が打ち切りとなり国交省の支援がなけれ

	ば継続の承認が得られない。(会員の意見) ・著作権を保持していない状況では、二次利用、有償利用で運営費用を賄うことが不可能。 ・常駐職員がいなければ、運営が成り立たないため、常駐職員の人件費確保が必要。 ・常駐職員がいなければ、普及センター内に事務局を置けないため、別途事務局経費が発生。 ・コンソーシアムとしての運営、委員会、総会、理事会等の維持する体制が必要。
[DAAS 運営者メリット] ・同様の活動をする機関で運営を行えば、システムや資料の利活用により活動の幅が広がる可能性がある。 ・会員企業や団体との関係の構築や、連携等が見込める。 ・コンソーシアム会員による会費支援が継続され維持・運営する機関等の費用負担が軽減される。 ・支援組織の職員が DAAS へ兼務出向で常駐職員を置くことができれば、普及センターで継続して事務局を置くことが可能。床代(会議室等の付帯施設の利用も含)光熱費等の負担が軽減される。	
[その他] ・設立理念の継承(貴重な文化資産である建築資料のアーカイブという事業の継続、過去の資産を次世代に伝える、豊かな建築空間、景観、環境の形成に寄与する、等) ・建築界に大々的に呼びかけを行ってスタートしたプロジェクトの継続は、文化の継承、文化的意識の高さを示すことになると思われる。	

【課題】

- ・ コンソーシアム維持のための会員メリットの提供
- ・ 国交省の支援(国庫補助含む)の永続性
- ・ 安定的な運営を目指した「母体」となる団体や機関の確保
- ・ 著作権問題の整理。DAAS が主体的にコンテンツ流通を促すような活動ができるようにすること＝「資料の保全と有効活用という理念」、原資料保有者と利害相反が起きるという点を踏まえた、知財との協調&交渉それによる運営費用の確保。
- ・ 公開されている資料でも、それ以上の利用に関しては、著作権問題が残るため無償で利用できない。
(著作権期限:個人は死後 50 年、組織の場合公表後 50 年)

A-2 DAASを解散し他団体でDAAS事業を継続

- ・コンソーシアムを解散し、上記事業①、②を継続(この場合の「他団体」は、規約第51条に基づき類似の目的を有する公益団体への寄付。これによらない場合は規約改定が必要)
- ・法人格を有する機関へ完全統合あるいは完全内容(1機関の内にDAAS業務を行う部署が存在とするイメージ。①の事業承継によりDAASが受けた「DAAS-Web サイトでの公開許諾も承継される」ことが前提)

メリット	デメリット
[社会にとってのメリット] A-1に同じ	[社会にとってのデメリット] ・解散時、権利関係が再調整されるまで、DAAS-Web の公開は停止が必要(確認中)
[DAAS メリット] ・事務所経費が軽減される可能性。(移行先の負担) ・Web サイトを既に運営している機関であれば、事業①の Web サイト維持・運営費は圧縮可能。 ・DAAS の規約上、類似の目的を有する公益断定であれば資産は寄付、寄贈が可能。 ・受取先が法人であれば、運用に際し、日本建築センター(BCJ)と国で契約し、BCJ に未だ残るコンテンツバイドール契約「国の資料を活用」する権利の譲渡が可能。 ・その他(アーカイブス活動にあたり重要な)契約行為を、法人として締結できる環境を得られる。 ・経営基盤(経理的基礎、人材等)が安定するとともに法人格を得られる。	[DAAS デメリット] ・Web サイトは、母体となる組織次第でランニングコストが圧縮される可能性もあるが、移行を見据えた改修、改善等の費用、初期投資が必要 ・解散時の権利調整、著作者への連絡が必要。 ・解散時、建築界に大々的に呼びかけを行ってスタートしたプロジェクトが継続できなかったことへの会員説明等が必要。
[運営者メリット] ・コンソーシアム解散となれば、これまでの体制、委員会、総会、理事会等を維持する必要がなくなる。事務局業務・経費の負担が軽減される。	[運営者デメリット] ・コンソーシアム形式が維持されない場合、会員による会費支援＝運営費確保が実現出来なくなる。 ・事務所経費／人件費／Web サイトの維持・運営費等々の負担 ・現状事務所を置く普及センターが床代(会議室・作業資料の資料庫も含め)光熱費を負担しているが、職員がいない場合は事務局を置かず、事務所経費等が発生する。

【課題】

- ・ A-1 同様、安定的運営のための「母体」となる団体、機関の確保
- ・ A-1 同様、国庫補助等の永続性
- ・ A-1 同様、著作権問題の整理。DAAS が主体的にコンテンツ流通を促すような活動ができるようにすること＝「資料の保全と有効活用という理念」、原資料保有者と利害相反が起きるという点を踏まえた、知財との協調&交渉それによる運営費用の確保。

- ・ **A-1** 同様、資料が公開されていても、それ以上の利用に関して、著作権問題は残る為無償で利用はできない。(著作権期限:個人は死後 50 年、組織の場合公表後 50 年)
- ・ 解散時、会員として 10 年以上支援頂いた企業・団体への説明が必要となる。
- ・ 会費以外での運営費の確保。
- ・ DAAS から他組織へ運営統合、移行など呼びかけ・交渉を行っても実現していない。(普及センターも同様。その他、建築研究開発コンソーシアム、土木学会、日本建築学会、等々の名前があがるも、実現していない。※大学、学会等は維持費用も多少見込めなければ移行は厳しいとの見解)

B-1:文化庁で資料を保管。(資料の永続的な保管場所のみ確保)

- ・ 上記事業①、③を実施せず、②の運用を除いた維持・保全のみを実施
(つまり国費整備による高詳細画像データを保管したハードディスクの二重保管のみの事業。)
- ・ 美術館等からの二次利用許諾手続きには応じられないことを想定とする。
- ・ この場合、会員の意見により、実質的な活動が見られない場合は支援が困難としてコンソーシアムの解散を選択するという前提とする。

メリット	デメリット
[社会にとってのメリット] ・ 保管場所が安定して存在すれば、貴重な資料を後世に残すことが可能 ・ 著作権が切れば資料の利活用が実現。	[社会にとってのデメリット] ・ データが公開されていないため、資料内容や所在が明らかにならない可能性や死滅の可能性がある。 ・ 二次利用の希望者が資料にアクセスする方法がない。※資料の一覧等のみ表示する機能をどこかに持たせるという方法もあり得る。
[DAAS メリット] ・ データの維持・保管のみとなり費用が軽減される (保管だけであれば、数年単位のデータ形式のメンテナンス、HDD の入れ替え等のみ※現状 2TBor 3TB の HDD1 台程度) ・ 企業、団体の会費負担がなくなる。 ・ 著作権が切れる時期を明確にし、その時期まで保管すれば、資料の利活用が実現する。	[DAAS デメリット] ・ 解散時、著作者への連絡、権利調整が必要となる場合がある。 ・ 解散の場合、建築界に大々的に呼びかけを行ってスタートしたプロジェクトが継続できなかったことへの会員への説明が必要。
[運営者メリット] ・ 著作権が切れば資料の利活用が可能 ・ その他資料と併せて「近現代」の貴重な資料のストックが実現する	[運営者デメリット] ・ 著作権が切れるまでは、運用もできない。保管庫という状態。 ・ 利活用、運用できない期間も、HDD、データ形式等のメンテナンスの必要がある。

【課題】

- ・ **A-1**、**A-2** 同様の DAAS から資料の永続的保管先に対して呼びかけや交渉を行っても、実現できていない。(保管先として、文化庁 近現代建築資料館、国交省、その他関連団体などが考えられる。)

- ・ 運営面について、現状、文化庁の一部署が運営を担っているが、今後の運営体制、運営者が変更される可能性がある。(独立行政法人等での運営に変更される、等見通しがたっていない。変更時の予算等に着いても見通しはたない可能性がある)

B-2: 国交省もしくは関連団体・機関で資料を保管(資料の永続的な保管場所のみ確保)

- ・ 上記事業①、③を実施せず、②の運用を除いた維持・保全のみを実施
(つまり国費整備による高詳細画像データを保管したハードディスクの二重保管のみの事業。)
- ・ 美術館等からの二次利用許諾手続きには応じられないことを想定とする。
- ・ この場合、会員の意見により、実質的な活動が見られない場合は支援が困難としてコンソーシアムの解散を選択するという前提とする。

メリット	デメリット
[社会にとってのメリット] B-1に同じ	[社会にとってのデメリット] B-1に同じ ・ 資料の利活用について、美術館、研究所等で、対応部署がない場合、著作権がきれた場合も二次利用が出来ない。
[DAAS メリット][運営者メリット] B-1に同じ	[DAAS デメリット][運営者デメリット] B-1に同じ

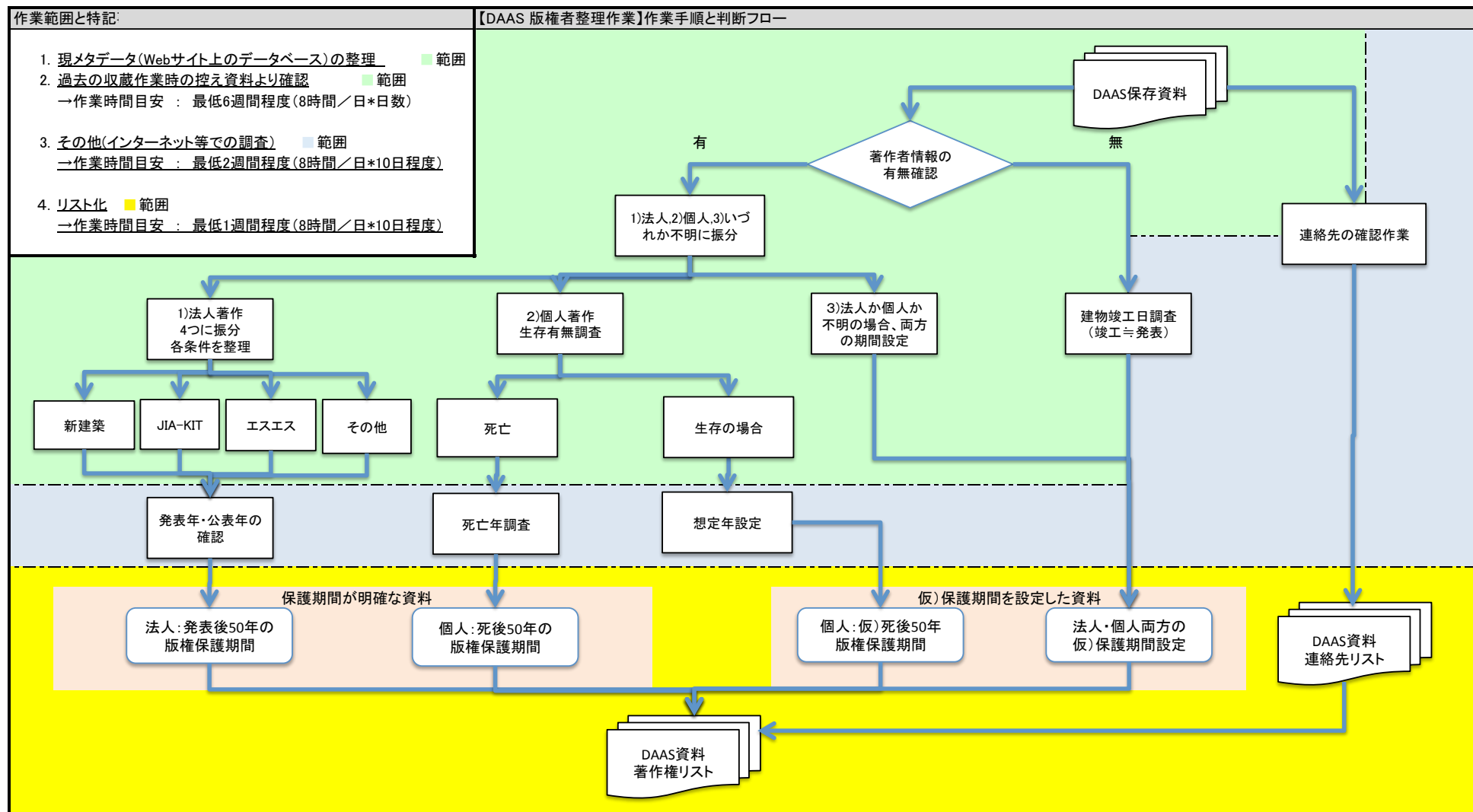
【課題】

- ・ A-1、A-2同様の DAAS から資料の永続的保管先に対して呼びかけや交渉を行っても、実現できていない。
- ・

【まとめ】

メリット・デメリットは、コンソーシアムの形式の維持が出来るか(A-1の場合)、解散となるか、(A-2の場合)で相反する場合があるが、課題については、共通するものと考えられる。

以上



目標・目的

- ・ 著作権保護期限の明確化(個人の場合、死後50年の想定 法人の場合は発表後50年の設定)※来年以降は70年に変更の予定
 - 法人著作か、個人著作かを整理する
 - 法人の場合の保護期間 発表年+50年保護期間 を設定
 - 個人の場合 死後50年と設定(生存している場合は仮定で設定)
- ・ 著作者連絡先の明確化
- ・ 法人著作か個人著作か明確でないもの、保護期限が明確でないものの(仮)期限の設定
 - 法人の場合: 竣工≒発表年を設定
 - 個人の場合 竣工日(仮に30歳で撮影とし100歳で死亡と仮定→)+70年後>著作権保護期間と設定

参考数字	法人権利とわかっているもの(新建築JIA以外)	236
	新建築	7,587
	JIA-KIT	1,068
	個人権利と思われるモノ	1,021
	法人・個人いずれの権利が不明のモノ	2,015
	小計	11,927
	写真がなかったもの	789
		12,717

別紙2

優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスの Web コンテンツの作成等業務について (報告書より抜粋)

本書は、建築・空間デジタルアーカイブス登録用コンテンツの作成等業務として 2017 年 10 月 1 日より 2018 年 2 月 28 日までに実施した、作業概要について記述した報告書である。

1. インタビューコンテンツ（オーラルアーカイブ）制作詳細及び成果報告

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

1.1. インタビュー対象者及び所属等

長谷川逸子(はせがわいつこ)氏

建築家。静岡県生まれ。関東学院大学、東京工業大学を経て、1979 年長谷川逸子・建築計画工房（株）設立、主宰となる。1986 年日本文化デザイン賞、日本建築学会賞を受賞。一方、早稲田大学、東京工業大学、九州大学などの非常勤講師、米国ハーバード大学の客員教授などを務め、1997 年王立英国建築協会（Royal Institute of British Architects）より名誉会員の称号。2000 年第 56 回日本芸術院賞受賞。公共建築賞受賞。2001 年ロンドン大学名誉学位。2006 年アメリカ建築家協会（AIA）より名誉会員の称号。2008 年フランス Pont d'issy 周辺の再編成コンペ 1 等賞獲得。2018 年英国王立芸術院(Royal Academy of Arts)よりロイヤルアカデミー建築賞授与

1.2. 収録方法・行程詳細

1.2.1. インタビュー企画の趣旨説明及び事前打合せ

撮影対象者へ協力依頼をし、趣旨・企画内容の説明、及び必要な情報の確認、撮影場所等について、打合せをし、収録内容を決定した。

今回は撮影対象者の希望により、建築作品のある場所でのインタビュー、作品解説を行うこととした。

1.2.2. 企画内容の決定

(ア) 伝えたい事 : 多様・異質を引き受け持続していく場としての建築 市民参加による市民が見える公共建築

(イ) 収録内容:

章1 建築の出発点

章2 多様を引き受ける

章3 ふるさとの風景

章4 次世代への継承

- (ウ) 映像制作の目的: 想い、メッセージを伝える
建築の設計において「使う人の立場で考える建築」
その思いを育んだ子供時代
学生時代のこと
次世代の人々に伝えること
- (エ) 収録方法
インタビューは約2～3時間程度。必要があればその作品内での解説映像の撮影を行う。
- (オ) その他
必要な挿入資料、ロケーション場所への撮影許可確認、撮影スケジュールの調整、編集時の進行
チェック、また、インタビュー・撮影者・スタッフ向けの情報の収集及び必要資料の作成(以下 (ク)
に添付)は DAAS 事務局にて行う。また撮影会社への指示、デザイナーの指示のとりまとめも DAAS
事務局で行う。撮影は、撮影会社への依頼を行い、編集時に利用するタイトル、テロップ等の作成
は、デザイナーに依頼する。
- (カ) 撮影場所: gallery IHA
- (キ) 撮影スタッフ
インタビュー : 六反田千恵氏(長谷川逸子・建築計画工房)
撮影(カメラ) : 後藤大輝氏(すみだクリエイターズクラブ)
ディレクター : 三田大介氏(すみだクリエイターズクラブ)
: 樋口珠由子氏(すみだクリエイターズクラブ)
デザイナー : 秋山伸氏(有限会社エディションノルト)
事務局 : 武藤奈津子(DAAS)
撮影協力 : 長谷川逸子・建築計画工房
- (ク) 資料: インタビュー・撮影者・スタッフ向けの情報の収集及び必要資料
資料1_別添 インタビュー内容(シナリオ)
資料2_別添 インタビュー内容書き起こし
参考資料1 プロフィールと主な作品・経歴表 ※インタビュー資料
参考資料2 作品一覧 ※インタビュー資料

インタビュー本編

長谷川逸子氏オーラルアーカイブ 撮影内容について（シナリオ案）

■インタビュー内で紹介する建築作品（案）

gallery IHA :

BY House 1985年竣工

当初、長谷川建築計画工房の事務所として竣工したが、2016年若者の支援の目的で
ギャラリー、レクチャールーム、模型展示などを行っている。

湘南台文化センター／不知火ストレスケアセンター／桑原の家／徳丸小児科
／新潟市民芸術文化会館 等

インタビューでお話頂く内容

1. 建築を学ばれたきっかけについて
2. 菊竹清訓建築設計事務所での仕事について
3. 篠原研究室について
4. 最初の作品について
5. 長谷川逸子・建築計画工房 設立
6. 作品について
7. 公共建築の設計に対する思い
8. 次世代の若い方々を育成する
9. 模型・資料を残すこと＝アーカイブについて

■インタビュー進行順・構成・キーワード

4. 最初の作品について：民家について がらんどろ
2. 菊竹さんとの出会い（スカイハウス） 菊竹事務所での仕事
3. 篠原一男研究室（白の家）
5. 長谷川逸子・建築計画工房 設立 独立 住宅から公共建築へ
1. 建築を学ぶきっかけ：生まれ育った環境が建築設計に与えている影響
- 6-1. 作品（独立後の住宅など） 桑原の家、パンチングメタル、ライトアーキテクチャーの先駆け
- 6-2. 作品（新潟市民芸術文化会館）
ランドスケープアーキテクチャー・アーキペラゴシステム・インクルーシブ・女性であること
7. 公共建築の設計に対する思い：市民参加への扉を開く
湘南台文化センターで起こったこと、市民参加のさまざまな側面（絵本館、すみだ、珠洲など）
8. 次世代を育成する：ギャラリーの運営
9. アーカイブについて

映像

DAAS INTERVIEW

vol. 014

長谷川逸子

Itsuko Hasegawa

2017

長谷川逸子 | Itsuko Hasegawa

建築家
長谷川逸子・建築計画工房(株)主宰／早稲田大学、東京工業大学、九州大学非常勤講師
ハーバード大学客員教授／王立英連建築協会名誉会員／ロンドン大学名誉学位
アメリカ建築家協会名誉会員／英皇王立芸術院ロイヤルアカデミー建築賞授与

【略歴】
1941年 静岡県焼津に生まれる
1979年 長谷川逸子・建築計画工房(株)設立、主宰
1986年 日本文化デザイン賞、日本建築学会賞を受賞。
2000年 第36回日本芸術院賞受賞。公共建築賞受賞。2
2008年 フランスPont d'Issy周辺の再編成コンペ1等賞獲得。
2018年 英皇王立芸術院(Royal Academy of Arts)よりロイヤルアカデミー建築賞授与。





インタビュー：六反田千恵 [長谷川逸子建築計画工房]
撮影・編集：STUDIO DPP
ディレクション：三田大介／樋口珠由子 [すみだクリエイターズクラブ]
作曲：榎田竜路／演奏：真荷舟
撮影協力：長谷川逸子建築計画工房
写真：株式会社新建築社
制作著作：建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム

DAAS

2. バーチャルリアリティ(VR)を使った空間画像データの制作詳細と成果報告

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

2.1. 撮影対象箇所の選定

2.1.1. 中山邸

宮脇宮脇檀設計の中山邸(1983 年)

住宅の老朽化に伴い解体・建て替えが決定した。施主の希望により多くの方に資料を残したいとことで全面的に協力を頂き、見学会と撮影が完了した。2017 年解体

2.1.2. 銀座ソニービルディング

芦原義信設計(1966 年)東京都中央区の銀座に所在するビル。外堀通りと晴海通りの交わる数寄屋橋交差点に面している。今後、いくつかの経過を経て、建て替えが行われる。

芦原太郎元理事長からの声がけにより、解体直前の撮影が実現した。2017 年解体

2.1.3. 四谷コーポラス

佐藤工業設計(1956 年)東京都新宿区に建てられた民間企業の初の分譲マンション。

DAAS 会員企業の呼びかけにより、解体直前の見学会にて撮影が許可された。2017 年解体

2.2. 収録方法 詳細

2.2.1. 撮影及び編集方法

高精細画像が収録可能な映像機材にて、連続した画像を撮影する。

2.2.2. 映像の Web サイト公開用編集業務

DAAS-Web サイト上で操作した際に、方向転換、視点レベルの変更等の動作が可能な全方位を見渡す VR(バーチャル・リアリティ)データに編集(オーサリング)する。

2.3. 成果報告

2.3.1. 中山邸画像収録とコンテンツ制作

所在地:埼玉県川口市安行吉蔵 306

設 計:宮脇檀

竣工年: 1983 年

状 況:解体(2017 年)・建替

住宅の老朽化に伴い、解体が決定。約 770 坪という広大な敷地にたつ平屋の延床 244 m²の住宅。
現在は周りに住宅が多く建ち、住宅地といった印象を受けるが、竣工当時は周囲には森が広がり、堀がめぐらされていたという恵まれた環境。長屋門を残したい、という住み手の希望から、住宅も瓦屋根が連なるものになったが、「この土地に合った日本の住宅をつくろうとは思ったが、和風の住宅をつくろうとは思わなかった」ということであり、宮脇檀のボックスシリーズの終焉ともいえる作品である。



2.3.2. 銀座ソニービルディング映像収録とコンテンツ制作

所在地:東京都 中央区銀座

設 計:芦原義信

竣工年: 1966 年

現 況:解体(2017 年)・建替

DOCOMOMO JAPAN 選定 日本におけるモダン・ムーブメントの建築に選ばれている。

東京都中央区の銀座に所在するビル。外堀通りと晴海通りの交わる数寄屋橋交差点に面している。正式名称は「ソニービル」である。ソニーが自社のショールームとして建築し、1966 年(昭和 41 年)4 月 29 日にオープンした。建築家は芦原義信、建設会社は大成建設。

モダニズム建築の重要建築物の一つであり、2003 年(平成 15 年)に、DOCOMOMO JAPAN 選定 日本におけるモダン・ムーブメントの建築に選ばれている。ビル平面は田の字状に四分割され、各階が「らせん状」につながるスキップフロア形式で構成されていた。

オープン当時は、外壁にはめ込まれた 2300 個のブラウン管を用いた電光文字表示、1 階のパネルヒーティング、日本一速いエレベーターなどで話題を呼んだ



2.3.3. 四谷コーポラス映像収録とコンテンツ制作

所在地:東京都 中央区新宿区四谷本塩町 10 番地

設 計:佐藤工業株式会社

竣工年: 1956 年

現 況:解体(2017 年)・建替

民間企業による初の分譲マンション。そのため、各住戸は改築されたものが多く、出来るだけ、当時の面影の残るものを撮影。



3. その他資料のデジタルデータ化作業成果

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

3.1. 収録方法 詳細

3.1.1. 建築関連団体の受賞作品その他著名建築作品の緒言データ整備

これまでDAASで収録した1万点の建築資料については、建築関連団体の受賞作品や著名な建築作品についての貴重な資料である。しかし、その膨大な資料から検索をする為の緒言情報(メタデータ)については、建物の施工年が古いものや収録時の情報の不備等々があり、特に重要な建物の位置情報・住所情報は整備ができていない。

また現況(取り壊し、改築、移転、所在地の市町村合併等)確認も必要と考え、建物の現況と住所表記のデータ化に着手。価値ある建物の正確な所在地のデータ情報を整備する

3.1.2. 図面資料のデジタルデータ化作業

事務所を閉められる予定の元倉真琴氏の図面資料について、散逸の危険があることから、物理的保存の関係先の検討と併せて、デジタルデータ化についての相談があり、DAASにてデータ化を行うこととなった。関係資料は約150点建物の詳細・メタデータについては、後日改めて管理するという事で、取り急ぎデータ化作業を行う。

3.1.3. 緒言データ整備方法

建物の名称、設計者、施工者の情報から、住所を検索する。またその住所から、位置情報(緯度経度情報)を探し、エクセルデータとしてまとめる。

整理した情報は Web サイトに掲載する為のエクセルデータにする。名称等の変更などがあれば併せて追記する。確認する項目とその確認内容は以下

訂正後名称	建物名称が変わったものについて、現在の名称も残しながら訂正後名称を追記する。
所在地／市町村	建物名、設計者情報から住所を検索する
所在地／以下住所	建物名、設計者情報から市町村以下の住所を検索(番地等)
訂正後 緯度経度	確認した住所より緯度経度情報を以下のいずれかの方法で検索する。 1) http://www.geocoding.jp/ から住所をいれて検索する 2) GOOGLE マップで住所を検索。右クリックし示された緯度経度のを確認  

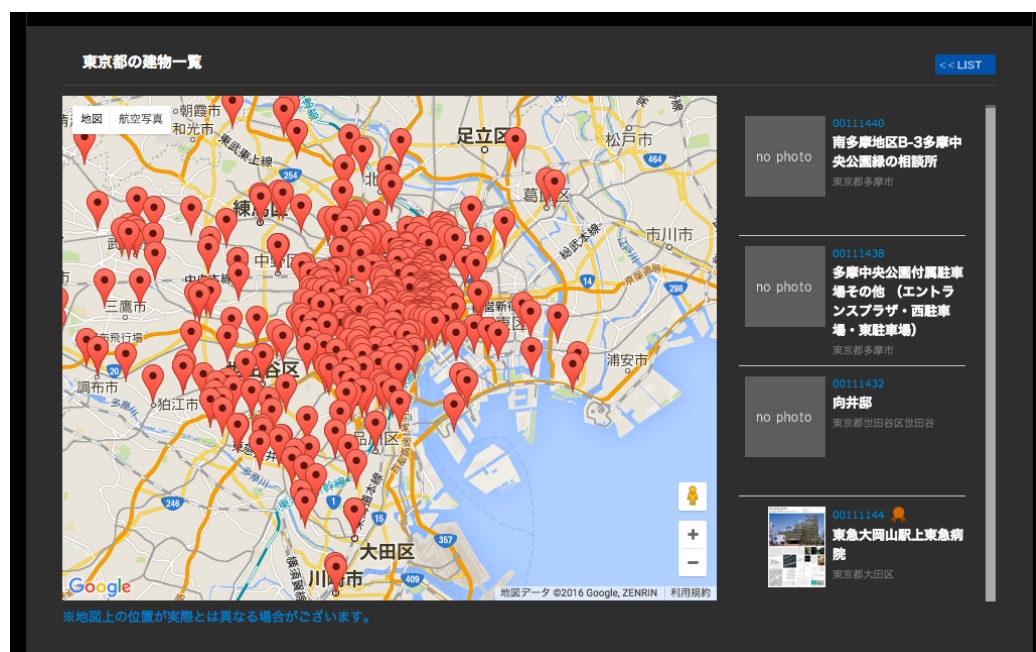
3.1.4. 図面資料のデジタルデータ化作業方法

DAAS 資料のデジタルデータ化の実績のある大日本印刷に依頼。図面のフラットリングを行った後、図面は破損の恐れがあるため、スキャナーではなく「撮影」を行う。撮影時にはカラーチャート及び、スケールを移し込み、現状の色合い、図面の大きさがわかるように撮影する。

3.2. 成果報告

3.2.1. 緒言情報データ整備

建築作品の「住所情報」「緯度・経度情報」のデータをまとめ、データを7. 報告書添付納品物(電子データ)の通り、電子メディアに収録・納品する。全体で 2900 件のデータについて全て見直しをおこなったが、そのうち、旧住所表記(1950～80 年代竣工の建物情報や、古い書籍の情報の写しであるため)、緯度経度情報の検索が全くできない、などの情報も多く、改めて再調査の優先度を決め「再確認のみ」としてよい情報、「詳細な調査が必要な情報」等々に内容を振り分けした。再調査の優先度が高い物は、優先度“高”としその中でも「県外の緯度経度をさしている」もの「住所が不完全な表記」等により段階をわけ、優先度の高い物から再調査対象としたが、その件数だけで約 1100 件となり、その他「コンペ等の情報のため、詳細の緯度経度が不明」「調査を行った物」等々の再確認も同様に行い、2900 件の情報を整理した。再調査し、整理された緒言情報は、DAAS-Web サイトに反映。これにより検索機能の「地図検索」についての精度をあげることができた。東京都などの建物が密集する地区では、周辺建物とともに著名建築の所在地を検索ができることとなった。このデータ化により、各地域の建物の見学・観光・町歩きなど新たな Web サイトの利用方法、活用方法などが見込まれる。



3.2.2. 図面資料のデジタルデータ化作業

資料の保全優先度を所有者にて設定をしてもらい、以下 4 作品の収蔵をすることとなった。緒言データの整備については、データ作成後検討することとし、取り急ぎファイル名をつけ、DAASの保存対象として収蔵を行った

デジタル化した図面(4 作品とその通し番号)

- ・岸上邸 40 枚 motokura_kishi_xxx(通し番号三桁)
- ・早川邸 20 枚 motokura_haya_xxx(通し番号三桁)・朝倉邸 44 枚 motokura_asa_xxx(通し番号三桁)
- ・堤坂邸 60 枚 motokura_tsutsu_xxx(通し番号三桁)

3.2.3. 成果物

詳細は、本報告書 7. 報告書添付資料(書類)及び 8. 報告書添付納品物(電子データ)電子メディアに収録し納品する。

4. 以上のコンテンツ掲載に必要な WEB サイトの機能追加

4.1. コンテンツの掲載の為の WEB サイトの機能改修・追加 作業概要

4.1.1. データの追記及びコンテンツの説明ページの整備

今回本事業により追加されるデータや新コンテンツ掲載に対応する Web サイトの機能改善を行う。360° VR パノラマコンテンツの制作、オーラルアーカイブの掲載ページ等の追加である。本報告書には、以下項目について記載する。

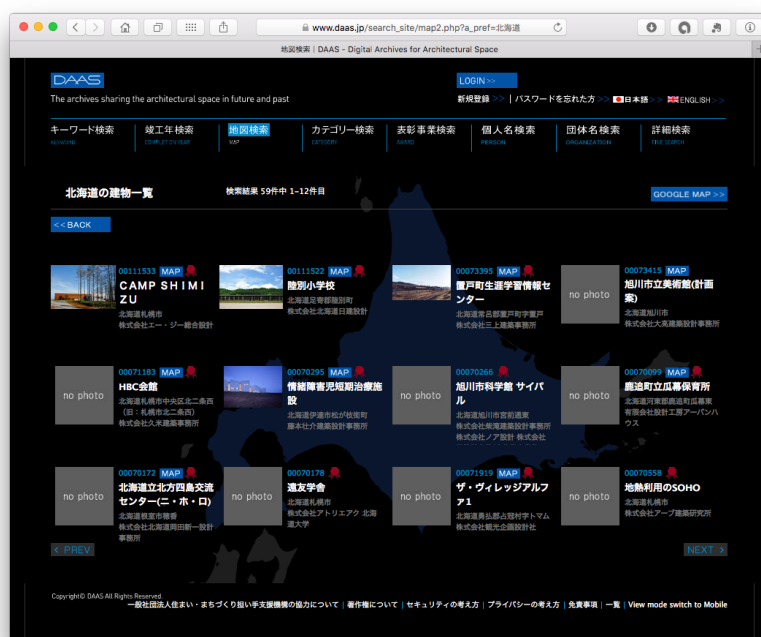
ユーザーインターフェース設計

プログラム動作テスト(内容／結果)

4.2. ユーザーインターフェース設計

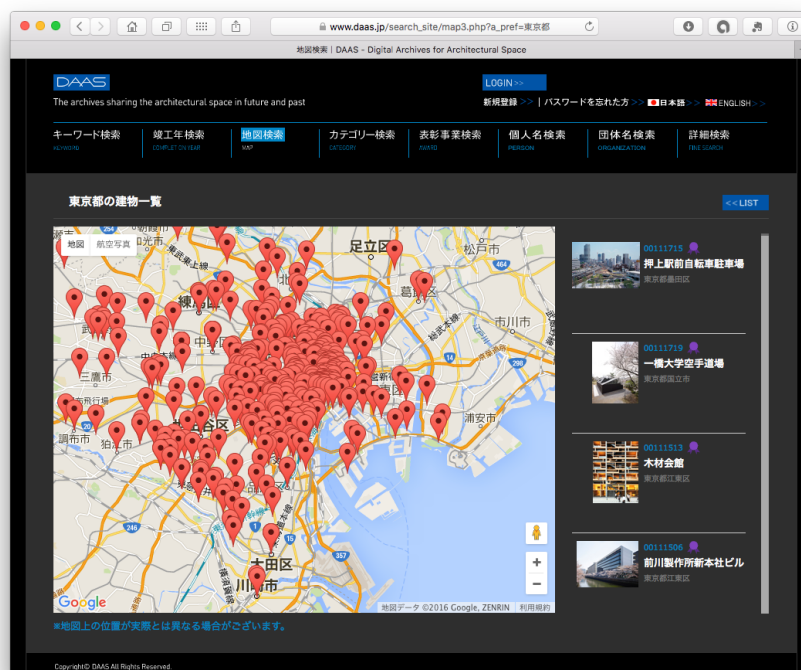
4.2.1. 地図表示

キーワード検索、竣工年検索、地図検索、カテゴリー検索、表彰事業検索の全ての検索結果の【MAP】をクリックした際に、緯度経度を使用して地図を表示する。
緯度経度情報が登録されていない建築情報は、新住所または現行住所を使用する。





地図一覧ページに緯度経度情報を使用してマーカーを表示する。
緯度経度情報が登録されていない建築情報は、新住所または現行住所を使用する。



4.3. 新規ページイメージ



以上

第 12 期 (2017-2018 年) 事業報告 (案)

1. 概要

予算縮小という厳しい状況の中、基本活動の「Web サイト等基本システムの維持・管理」「収蔵データの維持・保全」及び、国庫補助金を活用した「コンテンツ拡充」「Web サイト改修」「建築情報(データベース)の精度向上」においては、昨年度までと同等の事業成果をあげた。喫緊の課題である、今後の運営方針・運営体制については連携先の検討も含め関係箇所との調整をすすめている。

2. 事業実施状況

(1) Web サイト等基本システムの維持・管理

サーバ保守業者によるサーバ OS、周辺アプリケーションの定期的な更新やサーバ環境のセキュリティ対策等々、これまでの体制を維持継続している。

(2) 収蔵データの維持・保全

DAAS の資産の一つ「高精細画像データ」の破損と消失を防ぐことを目的として、事務局内保管と、データ保管専門業者の遠隔地のデータ保管サービスの併用を継続して行っている。

また「データの維持・保全」として、建築情報データベースの精度向上を目的としたデータの修正作業を継続し、特に建物の緯度経度による位置情報、建物作品の現況情報(現存・解体 等)、検索性向上を目的とした検索キーワードの付与等、情報の改善につとめている。建築情報の変更を簡便にするための管理システムの改修も実装した。

(1)及び本事業はデジタルアーカイブの基本活動であるため、今後も予算を優先的に確保し継続する。

(3) 運営基盤の安定化にむけた検討

第 12 期では、第11期までに検討を行ってきた事項の実現のため、以下の整理、関係先への相談等々を行った。別紙1

① 現状整理

(ア) 会員の状況、収入、予算見込み

(イ) 今後の選択肢の整理

(ウ) 資料の著作権状況の整理

② 体制の検討

(ア) 合併、統合、事業譲渡、等を含めた関係先の検討

(4) コンテンツの整備

動画収録、デジタルデータ作成

Web コンテンツ作成等業務の受託により(国庫補助金 300 万円)新規コンテンツ制作を行った。第 12 期の成果については別紙2にて詳細を報告する。

なお、本受託業務におけるコンテンツの整備は、実施年度と DAAS の事業年度が一致しないことから、第 13 期継続事業として進める。

[第 13 期コンテンツ整備事業(継続事業)]

- ・動画収録(DAAS 収蔵作品の建築家、写真家等)
- ・VR(ヴァーチャルリアリティ)を利用した空間画像データ
- ・アライアンス関係にある JIA-KIT 建築アーカイヴスが保管する図面資料のデジタルデータ化作業

(5) Web サイトの改善

新規コンテンツ収蔵((4)で制作したコンテンツ)に必要な新規ページの制作と(2)の収蔵データ維持にかかるシステム改修を行った。また Web サイトの資料の検索のしやすさ、画面の見やすさを検討し、システムの改善を行っている。主な改修事項としては以下

- ・一覧写真のサムネイル数の変更 表示内容の変更
- ・詳細情報画面の写真データの表示方法(縦スクロールからボタンによる表示切り替えに変更)
- ・管理システムの変更(情報変更画面の改修・サジェスチョン検索ワードの登録、等(2)再掲)

「(4)新規コンテンツの整備」と連動し、第 13 期継続事業とする。

(6) その他

① オープンアライアンス活動

(オープンアライアンスとは、同じ目的を持つ異なる企業・団体が組織の枠組みを超え、知識、技術、等を協力した状態で活動すること)

これまで JIA-KIT 建築アーカイヴスの保存する物理的資料(図面・写真・フィルム等)のデジタル化において DAAS が作業を行うなど、継続的にアライアンス活動をおこなってきた。第 12 期は(4)の事業に於いて DAAS がデジタル化作業を実施した図面の所有者が収蔵先を検討していた為、同アーカイヴスを紹介。管理体制が万全であり、十分な保管場所が確保され、資料が一括で保管されるという点が所有者にとって利点であったことから、資料は同アーカイヴスに収蔵されることとなった。同資料のデジタル化作業は引き続き DAAS で行うことを検討している。

②その他 DAAS の目的に資する活動状況

1)有償利用について

第 12 期における収蔵データの利用については国内から 4 件、海外から 1 件(その他 1 件は保留中)合計 5 件の申し込みがあった。

利用目的は展示、書籍掲載などである。いずれも設立時褪色補正をした高精細画

像、60-70 年代の建築作品に関する写真データの申込みであった。海外からは DAAS-Web サイトを通しての問い合わせを受けた。

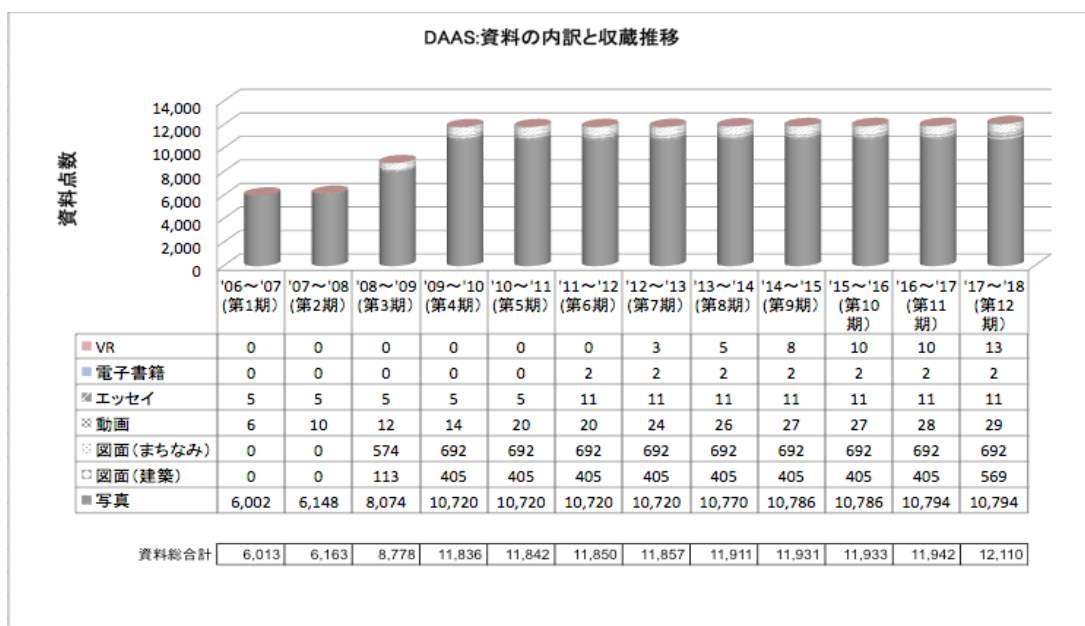
- 長谷工ミュージアム
- 森美術館
- 国際文化会館
- 一般財団法人日本建築センター
- Swarthmore College

海外からの申込みは日本の建築史を専攻する大学関係者からの紹介、DAAS を利用した米国の建築史家から紹介を受けたドイツの雑誌社からの問い合わせなど「日本の近代建築」に関わる方の中で DAAS-Web サイトの利用が少しずつ増えている状況伺える申込みであった。

● 設立から第 12 期までの DAAS の活動と登録者、閲覧者数の推移(報告)

①資料収蔵数推移(累計)

2011 年 UIA 大会以後の第 6 期からは団体会員の協力による表彰作品資料の収蔵数と国庫補助金の活用による動画、VR の収蔵、図面のデジタルデータ化など、少しずつではあるが、資料数を伸ばしている。

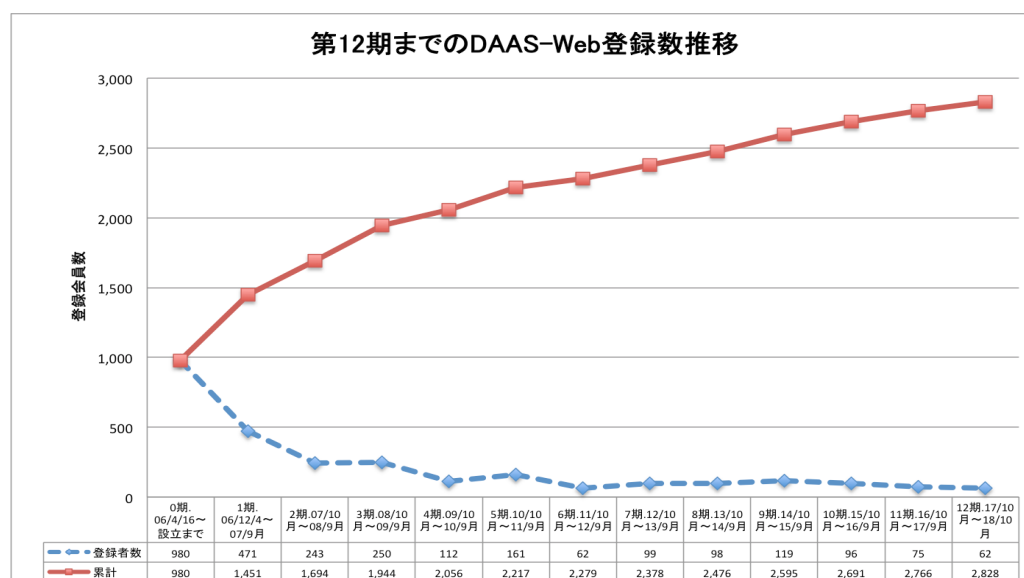
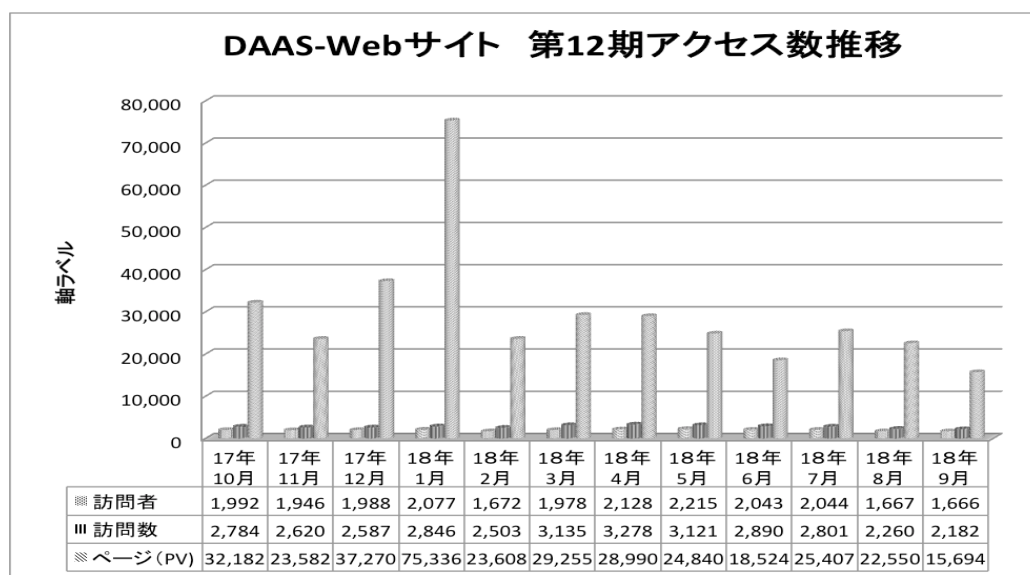


②Web サイトアクセス数推移及び、DAAS-Web サイト登録者数推移(累計グラフは次ページを参照)

(表内「訪問者数」に対し「訪問数」は「延べ数(同一 IP からのアクセス数)」である。)

第 12 期累計としては訪問者 23,416 人、延べ訪問数 33,007 人となり、第 11 期訪問者総数 21,839 人、延訪問数 32,480 人と比較して、訪問者数、ページビュー共に増加している。登録者数についての大きな伸びはみられないが、訪問数が伸びていることからリピーターの利用が多いと予想される。

近年国費にてコンテンツが制作されていること、また動画コンテンツは年々変化するファイル形式の管理の簡便さから Youtube の利用をすすめていることなどの理由から、今期より Web サイトの会員登録やログインなしでの閲覧を可能とした。併せて読み物コンテンツや VR の閲覧も登録・ログインを不要とした。ただし、写真・図面資料の閲覧は、資料提供者への配慮とセキュリティの観点から、これまでと同様、会員登録を必要としている。このため新規登録については、写真閲覧目的のための登録ということになる。DAASの収蔵する資料や動画コンテンツの「建築家の声」は、60-70年代の建物を対象としたものが多い。それらは近年取壊しの危機に直面している。動画コンテンツ内の建築家の「声」を SNS で発信し、取り壊しの危機にある建物の設計当時の「建築家の思い」を伝えることも微力ながら行っている。半年ほど前に掲載した菊竹清訓氏の出雲大社庁の社の該当箇所を編集した短編版を facebook で紹介したところ再生回数が 300 回を超えた。また、宮城大学では課題に関連して、DAAS の動画を利用している。コンテンツを活かす方法を今後も検討していきたい。



第12期(2017-2018年)収支計算書(案)

2017年10月1日から2018年9月30日まで

(単位:円)

科目	予定額(a)	決算額(b)	差異(a-b)
I 事業活動収支の部			
事業活動収入			
1 会費・入会金収入	6,090,000	5,980,000	110,000
企業会員	4,060,000	3,950,000	110,000
団体会員	2,000,000	2,000,000	0
学術・教育機関会員	30,000	30,000	0
個人会員	0	0	0
2 事業収入	3,050,000	3,079,880	△ 29,880
Webコンテンツ作成事業※	3,000,000	3,000,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	79,880	△ 29,880
3 その他収入	0	1,228	△ 1,228
受取利息	0	1,228	△ 1,228
雑収入	0	0	0
事業活動収入 計	9,140,000	9,061,108	78,892
事業活動支出			0
1 事業費支出	4,520,000	4,718,721	△ 198,721
WEBサイト改修委託支出	550,000	0	550,000
イベント事業支出	0	0	0
コンテンツ整備事業支出	100,000	871,769	△ 771,769
サーバ管理委託費	870,000	846,952	23,048
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用※	880,000	108,000	772,000
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用※	440,000	648,000	△ 208,000
Webコンテンツ作成事業/オーラルアーカイブ制作※	1,200,000	798,440	401,560
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備・コンテンツ制作※	300,000	1,409,861	△ 1,109,861
Webコンテンツ作成事業/その他経費※	180,000	35,699	144,301
広報事業	0	0	0
保守費支出	0	0	0
2 管理費支出	6,008,000	5,917,759	90,241
事務所経費	0	0	0
人件費	4,080,000	4,080,000	0
法定福利費	700,000	821,451	△ 121,451
旅費交通費支出	230,000	241,702	△ 11,702
機材費支出	50,000	66,777	△ 16,777
通信運搬費支出	250,000	249,323	677
渉外費支出	0	0	0
会議費(含総会)支出	465,000	158,759	306,241
租税公課支出	0	0	0
会計士外部委託費支出	173,000	172,800	200
雑費支出	60,000	126,947	△ 66,947
事業活動支出 計	10,528,000	10,636,480	△ 108,480
事業活動収支差額	△ 1,388,000	△ 1,575,372	187,372
II 投資活動収支の部			0
投資活動収入			0
修繕引当預金取崩収入		0	0
その他固定資産取得収入		0	0
投資活動収入 計		0	0
投資活動支出			0
修繕引当預金取得支出		0	0
その他固定資産取得支出		0	0
投資活動支出 計		0	0
投資活動収支差額		0	0
III 財務活動収支の部			0
財務活動収支差額		0	0
IV 予備費支出			0
予備費支出	3,859,022	0	3,859,022
当期収支差額	△ 5,247,022	△ 1,575,372	△ 3,671,650
前期繰越収支差額	5,247,022	5,247,022	0
次期繰越収支差額	0	3,671,650	△ 3,671,650

※一般社団法人すまいづくりまちづくりセンター連合会が実施した「優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWebコンテンツの作成等業務」を受託

監 査 報 告 書

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム規約第 15 条第 4 項の規定に基づき、建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアムの第 12 期(2017-2018 年度 2017 年 10 月 1 日から 2018 年 9 月 30 日まで)の業務報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った結果、正確かつ適正であることを認めます

年 月 日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長

阿部 俊則 印

年 月 日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

一般財団法人 日本建築センター 理事長

橋本 公博 印

議案2 第 13 期(2018-2019 年)事業計画(案)
及び収支予算(案)について

資料4 第 13 期(2018-2019 年)事業計画(案)

資料5 第 13 期(2018-2019 年)収支予算(案)

第13期(2018-2019年)事業計画(案)

1. 基本方針

DAASの基本活動の「Webサイト等基本システムの維持・管理」、「収蔵データの維持・保全」を通じて、公益的活動を継続する。活動にあたり、運営委員会の下に設置した「企画運営部会」の検討により事業を推進する。

なお、第11期からの継続事業については、第13期での実施を目指す。

2. 事業計画

(1) Webサイト等基本システムの維持・管理

DAAS-Webサイト、DAAS基本システムの安定的な稼働体制を維持・継続する。サーバ保守業者による、サーバOS、周辺アプリケーションのセキュリティー対策プログラムを定期的に適用し、引き続きサーバ環境のセキュリティー対策を行う。

(2) 収蔵データの維持・保全

「高精細画像データ」の事務局内保管分及び、遠隔地保管によるさらなる冗長性を確保する体制を継続する。新規収蔵コンテンツがあった場合には、同様の維持・保全措置を講ずる。

(3) 「企画運営部会」を中心とした事業推進と、運営体制安定化・強化策等に係る検討

「企画運営部会」を中心とした事業推進、運営委員会との連携、今後のDAAS活動に資する検討や、一層の運営基盤安定化検討へ向けた体制を確立する。

① 運営基盤の安定化方策検討(継続)

(ア) 今後の運営方針の選択枝検討

(イ) 他機関との連携に関する事項、等

② 事業計画に基づく事業実施や企画検討

③ その他、運営委員会承認事項の事前検討 等

(4) コンテンツの整備

動画収録、デジタルデータ作成

第11期同様、国庫補助金を活用したコンテンツを整備する。対象コンテンツは「企画運営部会」において検討するものとし、予算、納期等を考慮しつつ、実施可能なものから具体作業に着手する。

[前期より継続:コンテンツ整備事業(予定)※企画運営部会にて継続検討]

・団体等受賞作品の収蔵

・動画収録(DAAS収蔵作品の建築家、写真家等)

・VR(ヴァーチャルリアリティ)を利用した空間画像データ

(5) Web サイトの改善

新規コンテンツ収蔵に必要な機能追加、検索機能の改善のための機能追加を実施。

「(4)新規コンテンツの整備」と連動し、第 11 期よりの継続事業とする。

(6) その他

①DAAS 認知度向上等へ向けた広報等に係る活動

②その他 DAAS の目的に資する活動を実施する。

企画運営部会、運営体制安定化・強化策等に係る検討内容(案)

1. 今後の運営について(運営方針の選択肢の決定)

- ① 第11期以降の運営方針について、選択肢を決定する。「法人化／連携・統合／事業移行・譲渡／維持／解散」、その他選択肢の必要があれば追加し、第11期での運営委員会と必要であれば臨時総会を開催し、DAASの体制を決定する。
- ② それぞれの運営方針(選択肢)の課題、条件、目標、予算、及びスケジュール(達成時期)等も含めて①の詳細を部会で検討する。
- ③ 国土交通省の意向と方針を確認しながら、今後のDAASの運営方針を明確化し、必要な関係先に交渉し手続きをすすめる。

2. 予算縮小に伴う、事業範囲の検討と必要経費の検討

会費規程の改定に沿った事業範囲を検討し、事業を推進する。②に関して、方針が決定し予算調整の必要が生じた場合は、修正予算(案)を作成し運営委員会に諮り、事業を進めることとする。

- ① DAASコンテンツ拡充とシステム改変は補助金を活用し会費部分を縮小する

補助金活用事業での実施事項

- オーラルアーカイブ
- VR 撮影
- コンテンツの改変
- 表彰事業のアップロード、メタデータの改善

国庫補助金事業を活用したコンテンツ整備については、DAAS 年度との半期のずれがあるため、2017年3月に納品を完了。オーラルアーカイブについては仙田満氏、VR 撮影は法政大学 55/58 年館・朝陽館・嵐山カントリークラブ(現在掲載調整中)、メタデータは地図情報のブラッシュアップを行った。

- ② その他必要経費についての検討(会費事業分として)

会費にて実施が予想される事項

- 運営方針のための必要経費
- 法人化・連携・統合の為の必要経費(情報収集等含む)
- 他団体への事業移行・譲渡のための権利調整(著作権等整理)費用
- 活動維持のための必要経費

3. その他

組織基盤安定化を実現する経営資源の確保、他機関の支援・協力の確認 など

第13期(2018-2019年) 収支予算(案)

2018年10月1日から 2019年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額	参考:第12期予算額	第12期との差異
I. 事業活動収支の部			
事業活動収入			
1. 会費・入会金収入	5,660,000	6,090,000	▲ 430,000
企業会員	3,630,000	4,060,000	▲ 430,000
団体会員	2,000,000	2,000,000	0
学術・教育機関会員	30,000	30,000	0
個人会員	0	0	0
2. 事業収入	3,050,000	3,050,000	0
Webコンテンツ作成事業	3,000,000	3,000,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	50,000	0
3. その他収入	0		0
受取利息	0	0	0
雑収入	0	0	0
事業活動収入計	8,710,000	9,140,000	▲ 430,000
事業活動支出			
1. 事業費支出	4,520,000	4,520,000	0
WEBサイト改修委託支出	550,000	550,000	0
イベント事業支出			0
コンテンツ整備事業支出	100,000	100,000	0
サーバ管理委託費	870,000	870,000	0
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用	880,000	880,000	0
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用	440,000	440,000	0
Webコンテンツ作成事業/オーラルアーカイブ制作	500,000	1,200,000	△ 700,000
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備とコンテンツ制作	800,000	300,000	500,000
Webコンテンツ作成事業/その他経費	380,000	180,000	200,000
広報事業	0	0	0
2. 管理費支出	5,953,000	6,008,000	△ 55,000
事務所経費	0		0
人件費	4,080,000	4,080,000	0
法定福利費	830,000	700,000	130,000
旅費交通費支出	240,000	230,000	10,000
機材費支出	50,000	50,000	0
通信運搬費支出	250,000	250,000	0
渉外費支出	0	0	0
会議費(含総会)支出	180,000	465,000	△ 285,000
租税公課支出	0	0	0
会計士外部委託費支出	173,000	173,000	0
雑費支出	150,000	60,000	90,000
事業活動支出計	10,473,000	10,528,000	△ 55,000
事業活動収支差額	△ 1,763,000	△ 1,388,000	△ 375,000
II. 投資活動収支の部			
投資活動収入			
修繕引当預金取崩収入	0	0	0
その他固定資産取得収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
投資活動支出			
修繕引当預金取得支出	0	0	0
その他固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III. 財務活動収支の部			
財務活動収支差額			
	0	0	0
IV. 予備費支出			
予備費支出	1,908,650	3,859,022	△ 1,950,372
当期収支差額	△ 3,671,650	△ 5,247,022	1,575,372
前期繰越収支差額	3,671,650	5,247,022	△ 1,575,372
次期繰越収支差額	0	0	0

注)この予算書は消費税込みで計算しております

報 告

資料6 会員名簿変更について

資料7 規約第7条第4項に基づく指定代表者の
変更について

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)
会員名簿

(順不同 敬称略)

槇 文彦 (建築家)
 仙田 満 (建築家)
 竺 覚暁 (金沢工業大学教授 金沢工業大学建築アーカイブス研究所顧問)
 隈 研吾 (建築家)
 六角 鬼丈 (建築家)
 難波 和彦 (建築家)
 古谷 誠章 (一般社団法人 日本建築学会 会長)
 三井所 清典 (公益社団法人 日本建築士会連合会 会長)
 佐々木 宏幸 (一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長)
 六鹿 正治 (公益社団法人 日本建築家協会 会長)
 押味 至一 (一般社団法人 日本建設業連合会 副会長)
 阿部 俊則 (一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長)
 橋本 公博 (一般財団法人 日本建築センター 理事長)
 井上 俊之 (一般財団法人 ベターリビング 理事長)
 吉田 信之 (株式会社 新建築社 代表取締役)
 清水 琢三 (五洋建設株式会社 代表取締役 社長)
 山口 俊男 (株式会社 奥村組 取締役専務執行役員)
 千鳥 義典 (株式会社 日本設計 代表取締役 社長)
 成川 哲夫 (新日鉄興和不動産株式会社 取締役相談役)
 小涌 雅人 (前田建設工業株式会社 建築事業本部 建築設計統轄部長)
 栗山 茂樹 (清水建設株式会社 専務執行役員 設計本部長)
 内山 和哉 (積水ハウス株式会社 常務執行役員 東京支社長)
 河野 晴彦 (大成建設株式会社 専務執行役員 設計本部長)
 川合 智明 (株式会社 竹中工務店 執行役員 設計本部長)
 亀井 忠夫 (株式会社 日建設計 代表取締役社長)
 賀持 剛一 (株式会社 大林組 執行役員 設計本部長)
 尾崎 勝 (鹿島建設株式会社 専務執行役員 建築設計本部長)
 副島 伸一 (住友不動産株式会社東京東ビル事業部長)
 藤田 秀夫 (株式会社 山下設計 代表取締役社長)
 大堀 正博 (三井不動産株式会社 建設企画部長)
 碓氷 辰男 (東京建物株式会社 常務取締役)
 村井 純 (慶應義塾大学 環境情報学部長)
 近藤 伸彦 (株式会社 日建学院 代表取締役社長)
 南川 陽信 (大和ハウス工業株式会社 上席執行役員 技術本部住宅系設計推進部長)
 森高 英夫 (一般社団法人 日本建築構造技術者協会 会長)
 鈴木 眞生 (公益財団法人 建築技術教育普及センター 理事長)
 野部 達夫 (一般社団法人 建築設備技術者協会 会長)

2018 年 12 月改訂

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム（DAAS）法人会員指定代表者変更
（建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム規約 第7条第4項 関係）

（敬称略）

■ 企業会員

前田建設工業株式会社

〈変更前〉 鈴木 章夫（執行役員 建築事業本部 企画・開発設計部長）
〈変更後〉 小涌 雅人（建築事業本部 建築設計統轄部長）

株式会社大林組

〈変更前〉 山本 朋生（執行役員 設計本部長）
〈変更後〉 賀持 剛一（執行役員 設計本部長）

株式会社日建学院

〈変更前〉 西生 一次（代表取締役社長）
〈変更後〉 近藤 伸彦（代表取締役社長）

大和ハウス工業株式会社

〈変更前〉 南川 陽信（執行役員 技術本部住宅系設計推進部長）
〈変更後〉 南川 陽信（上席執行役員 技術本部住宅系設計推進部長）

■ 団体会員

一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

〈変更前〉 佐野 吉彦（会長）
〈変更後〉 佐々木 宏幸（会長）

一般社団法人 住宅生産団体連合会

〈変更前〉 和田 勇（会長）
〈変更後〉 阿部 俊則（会長）

2018年12月付